

うめきたのまちづくり / イノベーションエコシステム導入の視点から

今回の講師 山口あをい氏は、大阪市役所 都市計画局・大阪市総合計画担当、科学技術振興担当課長、イノベーション担当部長、都市計画局理事を歴任され、2016年退職後、現在ASIC代表をされる。

・うめきた先行開発区域のまちづくり

ナレッジキャピタル企画委員会による「ナレッジ・キャピタル構想」にむけての提言をし、2004年7月に大阪市がとりまとめた大阪駅北地区まちづくり基本計画から、大阪駅北地区まちづくり推進協議会を基盤に関西の産学官による検討と深化、構想の背景、基本イメージの整理、関西の産業・学術ポテンシャル、そしてうめだの立地ポテンシャルを活かして、当初の構想内ではロボシティコアやインキュベーション機能などがありましたが、ナレッジキャピタル推進室からの報告書により、開発事業者（条件:ナレッジキャピタル実現→運営組織づくり→タウンマネジメントを構築。）感性と技術を融合した新しい価値創出拠点とするナレッジキャピタルとしては、推進体制として、開発事業者と一般社団法人ナレッジキャピタル（直営事業の運営・外部連携等公益的な取組み推進。）と株式会社KMO（入居テナント等の運営管理、事業開発。）を推進体制とし、公民連携による参画機関の拡大を図り、施設内にはSALON・The Lab・研究所等が入っており、企業人・研究者・クリエイター・一般生活者、連携機関・大学等の利用者も多く、これは2018年3月時点累計から見てもわかり、イノベーション拠点としてうめだに知的交流地点の場の設定・提供ができた。これは、2013年にイノベーション創出支援・実施を目的とする大阪イノベーションハブ（OIH）が設立され、当初構想にあったロボシティコア（都市型ロボット・テクノロジー・ラボ等）の見直しにより、インキュベーション機能としても、起業家や技術者、大企業等が集まるようなグローバルビジネス創出拠点の形成として、人材・情報・資金が集まる場、イノベーションが継続的に生み出される環境であるイノベーションエコシステムが構築される。今までとは違うコンセプトで参加者を募り、やりたい人がたくさんいて、イノベーターズクラブ会員数も多くなった。この新しい取組みによりブランディングが高まり、アクセラレーション機関の立地支援としても、企業支援プログラムを開始し、ベンチャーにメンターをつけて、サポーターしていくことで関西から事業がうまくいくように取り組んでいる。

・うめきた2期開発の中核機能

うめきた2期まちづくりの目標として「みどり」と「イノベーション」の融合拠点の意味より、中核機能の在り方としてナレッジキャピタルは次代の関西を担う新しい産業や技術を創造し、知的創造拠点を目指している。

イノベーションプラットフォームの形成は、「プラットフォーム施設」と「イノベーション施設」で構成され、新産業創出の実現に向けてでは、うめきた2期の「みどり」の空間を通じて、IoTやビッグデータ等の活用により、人々が健康で豊かに生きるための新しい製品・サービスを創出する「ライフデザイン・イノベーション」を産学官民による活動を提供する。みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会では、「みどり」と「イノベーション」をキーワードに新たなまちづくりが進んでおり、2024年にまちびらき開業予定をしている。うめきた2期区域開発事業者（三菱地所㈱を代表とするグループ）の開発コンセプトとしては、希望の杜—osaka“MIDORI”LIFE2070 創造—。「みどり」と融合した生命力と活力あふれる都市空間。ひらめきや創造につながる多様で寛容な場づくり。新たな価値がうめきたから関西へ、国内外へと拡がるマネジメント。

中核機能のコンセプトとしては、共に考え、一緒に創る“with”イノベーション。

関係性を中心においた大阪発イノベーションのしくみ—「みどり」がつなぐ、うめきた共創エコシステム。という概念で進めています。

以上。